天狗に襲われたある氏子の話

上手渡地区に、古社小志貴神社（文永六年三月、文正十五年四月十五日、寛永六年清明二十四日、貞享元年三月十九日の棟札現存）が鎮座している。口伝にある通り山陰中納言が、西山の不動ヵ滝において老猿に襲われ危いところを白鹿にたすけられたことは、これ偏に神徳の到すところと里人らは信じてきた。明治初年のころ、篤信の氏子斎藤治郎兵衛と高橋直五郎の両名は、吾妻連峰の小志貴社奥の院に詣うでようと思い立ち出発した。目的地がもう少しという山中で、不幸斎藤治郎兵衛は崖道を踏みはずしあっというまに山腹の急斜地をころげ出し、途中の木の根に引っかかった。直五郎が駈けよったときには、もう息がきれていた。思いがけない同僚の惨死にあった直五郎は途方にくれた。今すぐに人びとに連絡する道もなければ、友の屍を一時的でも離れることは、情において忍びがた